

千刈狸の呟き

～ IOC、大丈夫か～

れいわ狸

IOCのバッハ会長が、オリンピック・パラリンピックの東京大会と北京大会の選手や関係者に対して、IOCが費用を負担して中国製のコロナウイルスワクチンを提供する考えを示しました。驚きました。なぜなら、北京大会開催と中国産ワクチン使用に懸念が示されていた時期だからです。

去年は中国の年でした。良い話ではなく、中国共産党の傲慢、横暴、恐ろしさが如実に示された一年でした。そして、それは今でも続いています。

中国は、コロナウイルスの発生源でした。しかし、中国共産党は認めようとしません。COVID-19のヒトヒト感染を隠匿して世界をパンデミックに陥れました。他国に感染症を拡散し、何の謝罪もないどころか責任を回避し、逆に資源の乏しい国には、マスクやワクチンなどの医療物資を送って、恩を売りつけました。コロナウイルスの起源に関する独立調査団派遣を進言したオーストラリアには、逆に輸入制限の経済制裁を加えました。国会議員団が台湾を訪問したチェコに対し恫喝しました。しかし、この恫喝に対してはドイツ、フランス、イギリスなど欧州各国から中国政府に強い抗議がありました。これには少し気が休まりました。

また、香港ではコロナ拡大を口実に民主主義を封殺し、一国二制度を形骸化し、香港を中国共産党の支配下に組み入れてしまいました。香港は事実上の死に陥り、以前の自由な国際都市香港はもうありません。あの周庭（アグネス・チョウ、24）さんらは、今どうしているのでしょうか。

中国共産党はウイグル、モンゴル、チベットの人々を弾圧し、インド、ブータンで国境紛争を起こし、南シナ海には勝手に九段線を引き、領有権未定の島々に国際社会の反発を省みず、次々に軍事基地を建設しました。東シナ海では日本固有の領土尖閣諸島に領海侵犯を繰り返しています。さらに2021年2月には中国海警の船が、日本など他国の沿岸警備艇に対して武器攻撃を可能とする海警法を施行しました。一方的に地域の武力緊張を高めています。香港における民主主義の弾圧および中国化に対する国際社会からの制裁の緩さに味を占め、次は、台湾、尖閣諸島の武力奪取を狙っているとされています。

2015年から中国では死刑囚からの臓器移植が法的に禁止されましたが、法輪功やウイグルの人々から違法な臓器摘出が続けられていることが、BBCな

どの海外メディアを通じて報道されています。それらの臓器移植を受ける日本人は多いと言います。また、多数のウイグル人イスラム教徒の女性に対し、避妊、妊娠中絶、産児制限などを強要していることが複数の情報源から伝えられています。我々医療者は無関心ではられない話です。これらの行為に対し、米国、カナダ、オランダでは中国共産党のウイグル人弾圧をジェノサイドと認める判断を下しています。

このような中国共産党の覇権主義、人権侵害に敢然と立ち向かっていたのが米国トランプ前大統領でした。尖閣諸島は米軍が守ると言ってくれました。さらに、北朝鮮日本人拉致被害者に歴代米国大統領の誰よりも明確で温かい支援の手を差し延べてくれたのも彼でした。コロナ以前は、経済政策の成功の結果、盤石の支持があり、大統領再選確実と言われていました。しかし、コロナで多くの米国民が死ぬと、政府批判が強まり、トランプ氏は大統領選挙で敗退してしまいました。米国の政権は伝統的に中国に宥和的な民主党に移りました。息子が中国事業で資金洗浄疑惑のある、現バイデン大統領による米国の中国政策が軟化しないことを祈るばかりです。

ところで、森 喜朗会長の発言を女性差別・人権侵害と言って世論を突沸させ、会長辞任まで追い込んだ人々は中国共産党の人権侵害には言葉少なです。中国との経済的結びつきが足かせになって身動きが取れないのでしょうか。ポリティカルコレクトネスとダブルスタンダードが世の中を席捲しています。

冒頭のIOCバッハ会長の発言は、中国共産党に対するジェノサイド批判に目をつぶると共に、中国共産党に対する国際的な批判さえストップさせようとするかのようです。ロシアはソチ・オリンピック直後にクリミアに侵攻しました。北京大会後に中国が軍事侵攻する可能性を指摘する向きもあります。コロナウイルス惨禍の陰で起きている危険性に対して、注意深く真剣に監視していく必要があると思います。

れいわ狸はこの度千刈の森を離れることになりました。これからは人の姿になって、コロナウイルス退治のため老体にもう少し鞭を打つつもりです。これまで大変お世話になりました。皆様のご健康と千刈の森の発展をお祈り致します。